京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年 紀元二千五百七十年
本紙定價（▲一枚金二錢▲一ヶ月前金[illegible]▲三ヶ月前金[illegible]▲六ヶ月前金[illegible]）郵稅一ヶ月十三錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行[illegible]▲特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神一郎
發行所 京城[illegible]（電話[illegible]） 京城新報社

韓大豆の將來

韓國に於て大豆は輸出品中最高を占むる輸出品に於ける大需要なり從來は只本邦市場にのみ輸出して只醤油釀造及び肥料の外需要なかりしが最近に至りて三井物産の手に依りて歐米輸出を開始されたるは韓國將來の産業上大に賀すべきことなるが、然し之れ等は一の疑問なきにあらず何となれば從來韓國に於ける大豆は質に於てこそ優良なれ其の量に於ては比較的少量にして日本市場をして滿足ならしむ事能はざる有樣なれば假令歐米輸出を開始したりとするも到底豐富なる滿州の輸出によらず卽ち滿州は東清鐵道及び滿州鐵等の變遷の便あるに引き換ひ韓半島に於て只一の鐵路京義線あるのみに大豆産地にはこの便なきため例ねば一時に千石位の買占めを行ふ時は直ちに暴騰を來し本邦市場の相場と關係なき位に奔騰する事は敢て珍らしきものにあらざるが故に目下の處にては斯業者は是等を考慮して二三名の買占めを行ふに過ぎず然るに滿州は滿洲のみにても昨年は九五萬噸の歐洲輸出あり大連より輸出するは年々數十萬噸を下らざるを以て一時に五六萬噸の買占めを行ふとも相場に差したる變動なく安心して斯業に從事するを得るに反し韓國産に於ては前の如き始末なれば其の規模を大にして歐米輸出を企つる時は却つて寄影響を與ふるものなれば目下の歐州輸出は只韓大豆の見本に過ぎずして實際の輸出は隆路運輸機關の開けたる後にあらざればとても爲し能はざるべしと

撫順炭の販路

日露戰役に於いて盛んに採掘しつゝある北滿洲撫順炭は益々礦區を擴張して昨年來より海外輸出を隆昌ならしめつゝあるが韓國に於ても大工場及び鐵道の如きは殆んど撫順炭を使用するものゝ如し然れども個人に於て日常使用しつゝあるは主として平壤炭なるが撫順炭は性質に於ては九州炭と大差なく韓鐵の如きは大に歡迎し居れるを以て從來三井物産にては鐵道及び工場のみの需要に供給しつゝありしが今年よりは販路方法を擴張して各個人にも供給する由なり

●金巾賣行惱まんとす

本邦より韓半島に輸入する物品中最高位を占むるは木綿類にして其の需要韓全土に亘り輸入年格大體五百六七十萬圓を下らず有爲の貿易品として市場に歡迎されつゝあり然るに昨年は市場不振と加ふるに綿花の暴騰したるために本邦に於ては原價と比較して勢び昂騰せしめざるを得ざりしが故に孰れも一反に付いて三四錢方の騰貴を見るに至れり、さなくとも購買力薄き韓民の農作の不況市場不振のために一層購買減退したれば例年を見越して仕入れたる斯業者は何れも損失せざるなく皆悲觀の狀態に陷れたるも昨年夏季の漁業の期節に入りて東西沿岸共に非常の豐漁なりしを以て一時加減の歩調にて相應の賣行ありしも其れも一二箇月間に止まり再び行惱の不況を呈し市場依然として振はず只機の到來を待ちつゝありしが在荷は積滯し賣行面白からずして越年したるは何處まで厄年の祟りたるならん然れ共目下は大豆相場も昂騰し金融も順潮の歩調に進みつゝある際と又韓人の節季も近きたる事なれば相應の賣行あるならんと觀測し居りしに案外の不況にて例年に比すれば約二割方賣行減じたる模樣なるも平壤方面は相應の賣行ある由なれば當市場もこゝ二三週間經過すれば相應の賣行あるならんと觀測さる

地方通信

▲平壤通信

▲暖氣と氷上通行 當地は本月中の寒氣に引換へて數旬よりの暖氣は近年比類なき温度にて爲めに大同江の結氷も少しく融け氣味となり氷上通行は危險の有樣を化し昨今は僅かに人の往來するのみにて牛馬或は牛馬車の通行杜絶の姿にあり

▲公園建設及び管理人 當居留國民に於ける年計畫なる瑞峯公園建設は本年より着手さるゝ筈なるが其の着手期は民團の豫算編成後即ち三月以後四月頃なるべく右は公園管理人は管理人規則に基き目下數名の申込あるも是等より人撰中なれば遠は其の着手以前に於て選定さるべしと云へり

▲平壤炭の試驗煉炭 過般德山海軍煉炭所に於て試製せし平壤炭の煉炭良好なる成績を收めたる由にて今回當該業所に繼續し來り鑛業所にて私各官公衙學校等重なる場所に試驗用として無代に配付せるが該煉炭は之れ等大の塊片に碎き焚火すべく若し手數を厭ひ壘大以上の塊片まゝ焚火するに於ては成績不良なるべし肉破碎するに當り力に任せて亂打するときは細粉を生ずるが故に手頃の木槌を用ひ一個づゝ叮嚀に碎き又焚火中屑を攪亂せば煉炭の原料は塊餅性に乏しき無煙炭にて崩壞し易きため炭粉となりて落下すべし是等は該炭使用に就いて最も注意すべき點なりと又普通炭に比すれば燃燒遲緩なるを以て通風等にも亦多大の注意を要すと

▲佛教婦人會新年祝賀 十四日午前一時より華嚴寺に於て開催され法式に次いで種々の餘興あるべく殊に本年は淨土宗祖法然上人の四十三回目に當るを以て盛大なりし

文苑

過ぎた元日（下）

龍山 儒策

「何が詰らないんだ」
「歪の模樣がさ」
「歪の模樣は少しも詰らんことはなからう、鶴は萬年の長壽を保つていから願ふるれ目出度いぢやないか」と、下田は說明を加へた。
「鶴が千年萬年長生するたつて、まだ實見したものは曾つて一人もなからう例んば長生するとした處でさ、年が年中水や泥に潜つてる丈けぢや少しも目出度はない。人間だつてそうだ」と云つて、持つてた大和の灰を落した。
大吉は更に言葉を繼いで。
「八圍も、いくら長生をしたつて、年が年中裏長屋に住んで齷齪する丈けなや少しも目出度いことはなからう。人間はモ少し活動の意義を呑まなけりや駄目だ」
「だから活動の意味を大に呑んでるぢやないか、今龜が、水や泥の中から出て來て、大に呑んで大に興奮して大に活動しやうとしてるんだ」と云つて、呑みかけの盃を鼻の先へ持つて行つた
大吉は、下田から此の說明を聞いて暫く考いたが、軈がて苦笑した。
「そりや龜はそうかも知れんが、人間は其麼ことでは駄目だ。個の醉ひに乘じて活動する人間なら、其の醉が醒めると活動も止むことになる。其麼なことで目出度いんなら、朝鮮人は赤飯を食つてるから年から年中目出度いと云ふのと同論理になつて仕舞ふ。日韓合邦論なんぞも一時は隨分八釜敷かつたけれども此頃では大分下火になつて居る、詰り漸次に熱が冷却して來るからだだから、人間は眞面目な活動でなければ駄目である」云つてる大吉自身も此時分には餘程ど醉つて居た。大吉と云ふ男は、外へ出て醉ぱらつて來ると其儘自宅には歸れん癖がある。彼は元日と云ふ今日も、終にへゞれけになつて、トウ〳〵遊廓へ飛び込んで仕舞つたが、大吉の遊廓へ行くのも醉ひに乘じての活動だから、醉が醒めたら眞面目な大吉になるであらう（完）

◎新刊紹介

▲東京經濟雜誌 波多野承五郎氏の官吏と財界は最も注意すべきものにして實業界の指導者たる官吏の文官任用令廢止論說實に其の當を得たるものにして自ら業為の感を與ふ▲大隈伯經濟界の現狀先づ以て讀むに値へす

日本銘刀傳

第廿一席 邑井一 講演

亭「まゝ、急ずに待つた〳〵、今話よから……其の坊主なか〳〵刀鍛冶の心得があると見ねて、何でも家の女中の言ふには御前さんの家でチーン、チーンと云ふ音がすると、其調子に合はして飯も食はずに箸でコーン、コーンと茶碗の縁を打ち始めた、所が御前さんがチーンと上槌を打つと、茶碗を膳の上へポンと伏せてあゝ失敗つたと言つたさうだ、すると私を二階へ招んで此の界限に刀鍛冶があるかと聽くから、俺アお前のことを日本一と褒めて遣つた、名人の喜左衞門さんと云ふ人ですと云ふと、オゝ左様か、夫れなら明日の朝にでも往つて致ねて遣れと云つて三十六だの二十八だのと面倒のことを言ふから俺は此の通りスッカリ紙へ書いて置いたのだ、忘れぬやうに……夫れで實は御前を威嚇かさうと思つて私の處から出たやうに言つて酷い目に遇つた 村「ウム、左様か、夫れで分つた其の坊主と云ふのは何歳位で連れの男と云ふのは何歳位だ 亭「今云ふ通り、坊主は六十以上で連れの男は三十位だつた 村「ウム、六十以上とあれば取りも直さず相州の正宗だ、四十位の連れの男は貞宗に相違ない、さては俺が此地に居るのを知つて、態々乘込んで來やアがつて、己の愛子彥四郎を世に出したいと云ふ考へから、俺の刀にケチを付けに來やがつたものに違ひねえ、弟子師匠の緣を切つたる彼等二人、我が假ちし刀を罵るとは、もう勘辨が出來ぬ」と身繕ひして帶締直して立上り 村「シテ其二人は何處へ往つた 亭「明神樣の方へ…… 村「オ、老人のこと故遠くへは往くまじ、跡追ひかけて……」と打上げし彼の新刀を取直し、表を目駈けて走出る 亭「アヽ喜左衞門さん、飛んでもない、まア待つてれ與んなさい」と止める亭主を押し退け突き退け眞一文字、燕返しに、バラ〳〵〳〵〳〵と、この時丁度山と山との間の道をトボ〳〵と來掛かる正宗と貞宗 正「貞宗や今日は好い天氣だの」貞「左樣でございます、山の登り口ゆゑ嘸御草臥でございませう」正「寄るまいものは年波だ、今日は大分草臥れた」折柄で後で「オーイ〳〵」と呼び掛ける者がある 正「はて此邊に知る人も無いに何用であらうか」と、杖を止めて立止まつて居ります、所へ駈け付け來つたる喜左衞門、唯一打と一刀を振被つて傍近くへ進んで參りました、久々で師匠に對面致し、嗚呼、お別れ申して二十有餘年我が爲めに、幼少の頃合より大恩受けたる其の正宗が、六十の坂を越れ、年波寄する其の姿、一目見るより自から頭が下る、流石の村正も手を下し衆ね振り被つたる一刀を背後へ匿し 村「これはハヤ師匠でございましたか、誠に久々にて御目通りを仕ります 正「オ、村正、旅館の亭主に言傳をして置いたが、定めし其方は自分の刀にケチを附けに來たのであらうと云ふので、其方は俺を殺しに來たのだらう憚りながら正宗は、出ない疵を出たとは云はぬ、そこは長年の功だ、香を聽いてケスパリの出た位は直ぐに分かる、さア此年になつた正宗生命は要らぬ、斬るなら斬つて見よと、兩眼に涙を浮べて意見を致す、村正は思はず大地へ兩手を突き 村「御師匠樣誠に恐入りました、仰せの如く必らず貴方は私の刀にケチを附けに出でなすつたものと思ひ、餘りに腹立しさに殺してしまふと思つて參つたのでございます、然し久々にて御顔を拜しますれば誠に以ちまして幼少よりの大恩、思はず御威光に打たれて手も顫ひ、心から我が身の愚かなりしことを覺りました、何うぞ〳〵御免しを願ひます、今日より必らず心を改めまして生れ變はつたやう成り心を穩やかに致します」と涙を流して詫入りました、かの屋の亭主も心配して後から追掛けて來て此有樣に漸く安心した

滿洲劇の開幕(六)

韓半島に及ぼす影響

京城新報

支那は昔から外交の國である、否近時國の存立の必要上一層外交國たることを發揮せざるを得ざることとなつたのである、余輩は今度の滿鐵中立提議を以て清國政府が米國政府に依賴したものとは斷言せぬ、而れども該提議の起りが薬々清國政府の意志より出で、清國政府否な清國人が一種の外交術を以てアンクルサムを動かしたことなることは敢て斷言して憚らぬのである、見よ過去數年間如何に清米二國が接近の狀態にあるかを、現米大統領タフトの如き曾て支那に遊んで大に今日の因を作つた者である、但しアンクルサムも今に於ては昔日の如く單純ではないのである、彼の下の關砲擊償金還附を容易に議決した程には單純でないのである、故に清國政府が巧妙なる外交術を振るひ自國の窮狀を訴へたればとて昔日の如く人道一天張りでオイソレと涙の安賣はせぬのである、益々涙を流さすれば夫々外交上の關係も辨がへ同時に自國の利益不利益をも辨がへるのである、清國如何に泣附けばとてアンクルサムはソー容易に承諾は出來ぬ、茲に於てか清國の爲に共力者となつて第三者の或者が口說の勞を採らねばならぬ、即ち口添許りでなく清米關係上一の尻押者が無ければならぬ、此尻押は頗る大役だ、而て此大役の者は引受ることを敢てせぬ、何となれば斯る大役を引受けるに就ては若し失敗した場合に於て自國の受くる不利益は必ず尠からざるものがあるからである、果然歐洲の一强國は此危險なる大役を自ら進んで引受けたのである、而して今日の處知らぬ振して我霞ケ關に向つて賦ふべき微笑を洩しつゝあるのである歐洲の一强國、余輩は茲に其名を現はすことの必要ならざるを認める、必要ならざるが故に茲には現はさぬぜソレは言ふ迄もなく遼東還附運動の發頭者であつた一强國であるのである、此强國が領土の擴張貿易の擴張に勉めつゝあるは驚くべきばかりである、併し人口稠密ならぬアフリカや南洋邊に殖民地を持つても大した利益にはならぬ、ソコで過去十數年來ドーかして東洋特に支那に喰入らんと勉めつゝあるのである、尤も支那へは現在に於ても相應の商品を賣込み同時に鐵道鑛山等の利權も相應に取つて居るが彼が飽く無きの貪欲はソンナ事では滿足せぬ、常に不倫なる清土分割を夢み而して分割の上には自分が獅子王の分前を掠得することを夢みつゝあるのである、此强國は曾て黃禍論を製造した、同時に熾んに傳播して一時東洋の平和を攪亂した。

東京電報

▲關稅改正案提出 關稅改正案は閣議を通過し近日議會に提出せらるべく該案は悉く國定稅率に依りたるものにて協定稅率に關しては何物をも含有せず(十七日)

▲昨年末の歲出入 大藏省主計局に依る四十二年末日歲入出現計は歲入總計は三億八千五百八十萬圓にして之を前年同期に比すれば九千五十七萬圓減額又歲出總計三億五千百十八萬圓にして前年同期に比し四千百三十萬圓を減せり(同上)

▲關東都督の後任 桂首相は大島關東都督に對し留任を勸告したるも都督の辭意頗る堅く到底留任の見込みなきより後任者の選定に就き桂首相は小村外相、寺內陸相等と再三協議したるも目下の處にては長谷川大將を後任に擬しつゝあり若し同大將應ぜざるに於ては川村大將木越第六師團長任ぜらるゝに至るべしと(同上)

▲兩議院の開會式 議會は二十日を以て休會期日滿了に付き二十一日より兩院共開會する筈なるが衆議院は當日委員會開會日なるを以て貴族院も一日繰延二十二日より兩院共開會當日桂首相の施政方針演說ある筈(同上)

▲農商務省の法律案 農商務省にては左の諸法律案を議會に提出したり(同上)

一、工場法案
一、漁業法案改正案
一、遠洋漁業獎勵法中改正案
一、家畜市場法案

▲藤公建碑と志士 哈爾賓在住邦人は同地に伊藤公の墓地を撰定すると共に公の紀念碑を建設し其兩側に沖、橫川兩志士の碑を建設する計劃中なり(同上)

▲日本銀行の增資 日本銀行は來る二月十九日の臨時株主總會に於て附議すべき增資案を發表せり(同上)

一營業年限を明治七十五年十月九日迄延長する事
一現在資本金一千萬圓を更に三千萬圓を增加して新株を發行することを政府に請願する事

▲曾禰統監の參內 曾禰統監は本日石井武官等を隨へ參內韓國の狀況に付き伏奏し優詔を賜はりたり(同上)

▲兩整理案の提出 政府は本日衆議院に稅制整理案に關する件及び鹽田整理案を提出せり(同上)

▲徵兵事務の打合 寺內陸軍大臣は二月十五日より十日間韓國駐劄軍司令部副官其他を招致して徵兵に關する打合せをなすと(同上)

▲駐韓將校の新任 步兵第五十六聯隊付少佐中村紹彥氏は韓國駐劄軍司令部付に補せらる(同上)

雜報

▲曾禰統監の消息 片瀨の別莊に靜養中なりし曾禰統監は十六日午後歸京せし旨其筋へ電報あり

▲都督府の廢止說 外務大臣小村伯爵は關東都督府廢止の意見を有し大島都督の辭任を機會とし行政を民政長官に一任し軍政を駐韓軍司令官に一任し倘ほ大久保大將は老体なるを以て辭退し大島大將駐韓軍司令官に任し一段落を告ぐべしとの說高し

▲各道の道路起工 本年度に於ける各道の地方費は其約四割を土木費に支出する由なるが國費及び極要の道路は內部に於て起工する故に地方費に依りて修築せらるゝ道路は郡邑其他枝葉の道路なりと云ふ而して豫算の認可となりたる地方に於ては可成速かに起工すべしと云ふ

▲李總相の日本行 李完用の其後の容體を聽くに傷口は旣に癒合したるも一時平癒したる肺炎又々併發し且つ身体の衰弱甚しければ不日日本に赴き豐後別府溫泉にて靜養する事となるべく一時伊豫道後溫泉に轉地すべく傳へられたるも肺炎には却つて別府溫泉の方功果著るしきより上述の如く內定したる次第なりと

●韓國黑鉛輸出狀況 韓國に於ける本礦物產中其產額の豐富にして且つ採掘上他商品として市場に出さるゝ迄の從來簡單にして比較的利益の正確なるは黑鉛の如くものなきが現今の產額は一年未だ一萬噸に充たず全世界の年產額十二三萬噸に比すれば未だ世界の市場に著しき影響を及ぼすに至らざるも現時韓國の黑鉛は尙は試掘試賣の時代にして万般の設備に於ても完全の域に達し居らざるが故に今後之等の發達に伴ひ各國の需要に應ぜんか比較的廉價なる韓國品は益歡迎さるべく殊に黑鉛は工業の發達と共に需要の範圍日に擴大せられつゝあるを以て其前途は益有望にして輸出の經路に就ても今日迄は大部分長崎を經由して獨逸に輸出されつゝあるが英米兩國は今後獨逸以上の顧客となるべき見込あり日本にても東京、大阪其他の需もなる鑄工所又は各軍港に於て多少の需要あり今後大に增加すべき勢なるが從來は橫濱神戶大阪外商の手により輸出さるゝより當業者の利益僅上にして仲買外商のみ利益を壟斷する有樣なるを以て斯業者は齊しく之を遺憾とし目下は運搬費輕減を講ずると共に歐米直輸出の計畫をなしつゝありと

●通管局の冗員淘汰 通信管理局にては齋多池田局長の歸京と共に早々通信管理局員の冗員淘汰を行ひ一時賜金として退官者に俸給の三倍額を給するやに噂せられたるが經費缺乏の爲め諭旨退官の形式に於て冗員を淘汰する事となりたり去れば舊冬中より缺員あるも此を補充せず漸々諭旨退官したる者多く舊年末のみにて判任官約四十名を數へられ尙續々同樣の形式を以て陰密の間に職を辭する者あり殊に聞するところによれば判任官二割高等官三割の豫定にて今春三月末位迄に全部の淘汰を終る筈なるが之が爲め局員一同は戰々として安き心もなく職に安んずるを得ざる狀態にありと

●仁川港の年末貿易 仁川港に於ける昨年十二月下旬の外國貿易總額は六十八萬九千八百三十圓內輸入五十三萬四千九百十三圓輸出十五萬四千九百十七圓にして之れを前年同期に比較する時は十二萬七千百九十六圓の減退を示せり今左に輸出入の重なる品物及金額を摘記せん

輸出之部

大豆及小豆	八九、九九〇圓	米	三三、七〇〇圓
牛皮	九、七三五	海參	六六〇圓

輸入之部

綿布	四五、六八九圓	生金巾	八九、六六〇
晒金巾	二二、〇一〇	石油	一八、六四〇
清酒	一六、三〇〇	煙草	一七、二〇四
綿絲	一四、〇〇七	其他雜品	

●平壤地方燃料相場 平壤に於ける薪、木炭、石炭は舊臘中旬本年外に早く大同江舟楫の杜絕せる爲め相場一時に昂騰し昨年比になき殘氣なるにも拘らず肉は下落せず木炭は九錢より十一錢を唱へ居れり尤も木炭は興水、新義州地方より引續き輸入しつゝあるを以て多大の變動なきも薪は目下堅木皆無にて松木のみとなり其相場は從來一貫三錢を上らざりしもの今日は五錢乃至五錢五厘を唱ゑ而も尙は品不足の感あり是れ一は龍川、漁渡附近より流筏にて輸送せる爲め運賃に費用嵩む故なりと又松葉は普通一把八九錢なりと

●共進會と鐵道割引 來る三月より沖繩縣主催にて第十三回九州及び沖繩八縣聯合共進會開催する由にて殊に今回は前回に比し出品種目を增加し會期を延長し聯合縣內に於ける生產物を網羅し尙全國名產をも蒐集したる共進會なるが同會にては韓半島に於ける日本人及び韓人等に普く觀覽せしむる目的にて是等の便宜上博多驛と統監府鐵道課とは二割引往復乘車券を發賣し尙は二十人以上の團体には五割引の取扱ひをなす由なれば觀覽者のためには大なる便宜なるべし

●農商工部と漁業法 昨年四月一日より施行せられたる漁業法は農商工部に於て之れを全國に周知せしむる爲め各道事務官觀察道及び朝鮮海水產組合へ周知方法を委任し且つ農商工部より權要地へ吏員を出張せしめて盡力したるも猶ほまだ知悉せざる者多き由なるが慣行ある漁業は漁業法に依りて更に權利を得るにあらざれば本年三月末を以て期限を失ふこととなる故に農商工部にては近日更らに諺文にて認めたる漁業法案內なるものを全國に配布して漁業法の周知方に勉むる由

●謝罪使の狀況報告 謝罪使の一人鄭寅昌は十三日釜山より急行列車に乘じ慶山驛に下車し同地名望家なる金鐘人宅に一泊し翌早朝新寧郡地方委員なる李應斗方に赴き諸般の報告をなせり又他の一人なる宋鍾昇は鍾路なる謝罪使派遣事務所にて各道代表委員に對し謝罪の任務を終へたる旨を告げ伊藤家始め日本上下の懇切さ其の文明の進步の意想外なるを賞讚したる由因みに各道代表委員は更に右の報告を傳達すべく漸々歸鄕する者ありと

●同志會員と李容九 一進會長李容九は一昨十六日正午對韓同志會員なる大谷誠夫五百木良三の二氏を明月館に招待したるが菊池謙讓氏鮎貝房之進氏太田氏の三名來賓として列席し主客歡を盡して午後四時半散會したる由時節柄日韓合邦に關する何等か重要の打合せなるかの如く推測する者もあれど席上の談話は時局と沒交涉なる閑話に過ぎざりしと

●昨年の京城戶籍面 昨四十二年度に於ける京城居留民の出產死亡婚姻數は實に左の如し

出產	男	三百五十八人
	女	三百九十五人
死亡	男	三百五十五人
	女	三百十七人
私生兒	男	七十人
	女	六十三人
婚姻		七十三件
離婚		四件
養子緣組		十二件

の割にして出產數を死亡數に比すれば私生兒共に二百四名の超過を示せり

●江景公州間の航路 江景公州間の航運に就ては在江景なる松永定次郎氏久しく其經營に意ありしが今回計畫愈々熟し吃水淺き石油發動機船を以て右航路を開始するに決し汽船は目下大阪に注文中なるが右汽船は淺瀨に遭へば自から浚渫しつゝ進行し得る裝置となしあるを以て回航の上は直ちに航路開始の運びとなるべしと

●昨年の傳染病者數 昨年中に京城民團に於て取扱ひたる傳染病患者總數二百五十八人にして之れを細別すれば左の如し

	男	女	計
虎疫	八五	五四	一三九
赤痢	七	七	一四
痘瘡	二七	一五	四二
實扶的利亞	四	…	四
猩紅熱	七	九	一六
腸窒扶斯	二五	一〇	三五

因に昨年中京城民團に於て取扱ひたる行路病者は三十九人ありしと云ふ

●地方費及び土木費 地方費の費途は土木費、衛生及病院費、教育及學務費、勸業費、救恤及慈善費、道官吏費等なるが中にあつて土木費は各道共殆ど全部四割強を占めたれり而して土木費中道路修繕費多額を計上せるが國道は國庫に於て修繕し其他の小道路は總て地方費にて修繕する由

●土地證明事務疑義 土地證明事務が法部より內部へ所屬換へとなる迄同事務に關する疑義は郡守より直接法部大臣に照會せ居たるが今後は郡守より觀察使に照訴し尙ほ疑はしきものに限りて內部へ照會せしむることゝなりたる由なり

●韓海水產の研究會 九州各縣の韓海漁業關係者を以て成る同會は來る廿五日より三日間長崎市袋町青年會館に於て開催さるゝ筈なるが今回は從來の四縣以外鹿兒島、大分、宮崎の三縣も加入し九州全部聯合の研究會となり盛大に行はるべしと

●時局問題と茶話會 今十八日午後六時より京城ホテルに於て時局問題研究會茶話會を開催する筈なるが過般推選したる評議員即ち兩會議員、辨護士外有志者等多數集會の由なれば定めし盛會なるべし

●民團小學校の敷地 民團第三小學校の敷地は未だ決定せざるも民團理事者の意見としては中部以東に於て撰定する希望なりといふ

●在京歐米人懇親會 去る十五日午後八時より青年會館に於て京城在留の歐米人懇親會を開催し會合する者百餘名にして種々の遊戲音樂を演奏し晚餐を共にし十一時散會す

●免許漁業調査成行 昨冬水產局に於て免許漁業の實地調査をなしたるが目下報告書調製中にて庵原漁政課長出張より歸任する頃完全の見込なれば來月初旬審查會を開くべし

●昨年中の種痘者數 昨年春秋二季に於ける京城種痘者は總數八千五百五十八人にして內男三千六百十六人、女四千九百四十二人なりと云ふ

●東拓會社漁業出願 東洋拓殖會社は愈々數日前農商工部に免許漁業の出願を出せり而して其區域は主として平北沿岸なりと

●棉花栽培所の官制 農商工部所管の棉苗場棉花栽培所の官制は本年四月より改正せられ技師、技術官を增員せらるゝことになるべしと

●農業敎科書の編纂 學部に於ては高等學校に用ふべき農業敎科書編纂するにつき目下其の目次及要項を農商工部に照會中なり

●岡內部次官の東上 曩て報導せし如く岡內部次官は地方行政統一問題及吏員傭聘の任務を帶びて十七日朝東上の途に就きたり

●石井武官歸韓遲延 曾禰統監に隨行し大坂より引返し歸韓の豫定なりし石井少將は都合に依り遂に東京まで同行し歸韓遲延せりと

●朝鮮日日新聞解停 去る十四日より發行を停止せられたる朝鮮日日新聞は十七日解停せられたり

●山根侍從武官出發 駐韓軍慰問の爲め渡韓の筈なる山根侍從武官は十六日東京出發の旨電報あり

●倉富司法廳長東上 倉富司法廳長は昨十七日午前南大門發列車にて東上の途に就けり

●英文財政の概況 度支部にて最近出版したる韓國財政の概況は今般英文に翻譯して各方面に配布したるが本書は韓國に於ける最近財政の概況を網羅し以て韓國財界の一班を窺知せんとする者及韓國に來りて短日月の間に必要の說明を爲さんとする者の爲には頗る輕便の書籍にして印刷鮮明に体裁美麗の小冊子なるが其の譯文は最も流暢なり

●韓大官の新年宴 朴內部、高度支部、李學部、趙農部の各大臣、閔宮相尹侍從院卿、金中樞院議長、趙承寧府總管及中樞院顧問等二十餘名は一昨十六日午後一時より巴城館に於て新年宴會を開けり

●東拓會社の招宴 東拓會社に於ては十六日午後六時より倶樂部に於て京城の新聞記者二十餘名を招待して同社創立一週年の祝宴會を催したるが宇佐川總裁の挨拶に次で京城日報社長大岡氏の答辭あり頗る盛會なりしと

●仁川の新年宴會 仁川居留民團及在仁新聞記者團は一昨十六日午後六時より一富士に於て新年宴會を催ふしたり

●內部次官の代理 岡內部次官東上中は松井警務局長次官代理を命ぜらる

●司法廳長官代理 倉富司法廳長官東上不在中は松寺次官代理を命ぜらる

●古川通譯官歸任 豫て安重根に關する取調の爲め旅順に出張中なりし統監府通譯官古川松之助氏は取調結了し二三日の後歸任すべしと云ふ

●仁川理事官出張 信夫理事官は昨十七日午前八時出發管內鐵道沿線地方に於ける視察の爲め出張したりと

●村瀨事務官出張 釜山理事廳事務官村瀨鎌次郎氏は十五日午後十時四十分南大門發列車にて東上せり

●櫻井局長の出發 元山財務監督局長に轉任せし櫻井小一氏は廿五日赴任

●仁川稅關長出張 仁川稅關長なる宮木文七氏は今般門司、神戶、大阪、橫濱及び東京へ出張を命ぜられたり

龍山通信(十七日支局發)

▲北韓の大雪 前日北韓守備隊より軍司令部に達したる報告に依れば北韓の寒氣は客年十二月中旬に於て最も甚だしく今月十四日羅南地方にては〇下二十四度に降りしが其後漸次氣溫昇り寒威甚だ峻烈ならざりしも同三十一日に至り咸北一帶稀有の大雪あり電線は切斷され輕便鐵道は積雪の爲め運轉を休止したるのみならず同日溫度稍高かりしより積雪は上面溶けて又凍り一面の氷晶盤と化し步行困難を極め一時咸北一帶通信交通共に杜絕するの狀態に在りしといふ然れども電線は間も無く修理成りたり輕鐵も本月上旬中には運轉を開始せるならんも未だ其報告に接せず

▲汽船の遲着 去二日濟物浦を出帆したる大阪商船會社汽船は(咸興丸?)海上大暴に遭ひ十四日漸く釜山に到着す

▲青年會講演 龍山鐵道青年會にては十七日鐵道倶樂部にて講演會を開催し文學士ヒツパード神學博士元田作之進兩氏の講演あり

▲局長夫人歸京 大屋鐵道管理局長夫人及同令孃は十五日午後十時四十分南大門發列車にて歸京せり

拳骨（八）桃陰

「どう爲さるんだ」
「どうすると云つて君元の鞘に納めて置くより外はなからう」
「さうや鞘だが中々容易くは納まらんぜ」
「納まらないと云ふ事はない、先を納めやうとすりやこそ面倒だが……[illegible]仲裁の直るべき[illegible]君がヤイ〳〵騒ぎ立つるから何とか云ふ氣になつたんだ……」
「君には[illegible]絶對にないんだ」
「なくても[illegible]親分に肌を脱ぐやうな[illegible]に斷りする、之が[illegible]つて置て見給へ、何時の間にか[illegible]間で仲直りが出來て居る[illegible]大体高麗式何處に居るんだ」
「青木[illegible]、彼の洋書家の……其處に[illegible]」
「青木か[illegible]の如くする反對派の[illegible]書生ッ」
「何だ」
「何だも彼んだもある者か、僕ア止めた[illegible]」吾海居士は一運に憤つて言つた。
「柴山のみぢやない、吾輩を迄侮辱する奴だ」
「盲う云ふ事情が伏在して居るか知らなかつたから……君が此樣に一緒に腹を立てゝも困る」
「困るナア」と尾久十君も閉口する。
「困る事もないさ、僕が獨りで調停しやう」
「止し給へ、調停は僭越で僕は之を機會に夫人を離縁せしめ樣かと迄考た」
「何んだ、[illegible]と云ふかと思へば離縁すると云ふ……」
「成程事情を知らぬ君には理解されんのも尤もだが……兎に角柴山を訪問しやう、萬事は其上の事だ、併し君が六大人から[illegible]でも取つて連れて歸るとは云はんから[illegible]かね」
尾久十君は苦笑した、
「なか〳〵[illegible]不可能さ」
「汝や[illegible]だから往う、今度は吾輩も[illegible]居れん、真の友情を斯る場合に[illegible]見給へ」
「[illegible]解つたか」
尾久十君に何が解らう。
「一向解らん」と濟まぬ顏を露る。
「今に解るよ」と起上つたが、
「オイ初雄」と細君を促す。
「良人余り亂暴な事をなすつちや困りませんよ」
「お前等の知つた事ぢやない」と羽織に手を通し通しに出て往く、尾久十君も詮々隨いて往つた。
「併し柴山、今頃ぶらりして居るだらうな」もの、牛町も往つた喫茶店が[illegible]ける。
「何うつて君、少しや困つてるだらうぢやないか、飲まず食はずには[illegible]も持てんからな」
「さうだと可いが案外岡君も暢氣だから冷酒なんかを遣つちや居るまいかと思つて……醉つて居ちや話も出來んからね」
夕暮の大路は豆腐屋の喇叭が急がしく聞ゆる。

狂亂菊牡丹（三）

▲伯爵若殿の無情 ▲知らぬは新夫人

されど讀者諸君には表裏のあると知られよ表あれば必ず裏ありまして叶家の獺子拍子とて一頻り新柳二橋にて來る程の男を手玉に捉つて繰りし程の腕も度胸も據か者何か魂膽の無くて可ならんいでや此れよりは側面のそが操りの糸を手繰り見ん。

兄か從弟

川竹の色賣る巷の常とかや兄か從弟のある者なるが夫れ獺子拍子も其の一人にもれずして兄なる人の附き隨ひ彼の菊町は菊牡丹世話を忍ぶ小間物の開店準備一切は兄なる人の胸算よりして割り出されしと知られたり去るにても是れほどの獺子拍子

寛一の殿

の結婚沙汰を新婚披露の當日迄何ぞ知らぬ事あらん百も承知の

畫策

は淡韓前より亞まれて借こそ乘込みの其の際は態うして彼かなる此の先きの見越し豫算の一大活躍其れが下地の妹迄情人が兄やら從弟やら哥兄亥の尻押し連れての決斷こそ云はずと知れし

手切れ問題

南山風し雪を卷き新婚披露の濟し頃は早や徐々の下心時も矢先きに狂亂の記事の一度載りしより店は俄かの大繁盛にやつれし獺子拍子如何なる女ぞ香水の一本がもの奮發し見に往く客の跡絶えず去れど怪しや續ひと見るどは反對の半狂亂の其の人は憂ひの小皺見せもせず只にこ〳〵と愛嬌の濟んし許りの有樣に是れはく〳〵の二度吃驚信疑の區別もつかざりしとは最も至極の話にてこそ斯くて持出されし手切れ問題まさか直接の一騎打にはよもあるまじと探つて見れば解めたりな此の中間に夾まりて調停の勞を取らるゝは誰れならう日韓瓦斯の專務取締役岡崎遠光其の人ならんとは何も面白き相撲かな何が故に岡氏が之が仲裁の勞と取るには至りしか又此の末の結末は何と落着する者やら狂亂菊牡丹は一ト先づ之にて筆を擱き續狂亂菊牡丹として後日の紙上にて報道せん

仁川港口の海賊

▲帆船の積荷を强奪す

去る十日の夜仁川港口入尾島附近にて牙山郡細浦居住の金光善と云へる者が玄米八十石及粟四十石を積載して仁川港に向け航海中海賊に遭遇し積荷の過半を强奪せられたりとの飛報に接せし仁川署に於ては金警部以下巡査數名を警備艇に乘組ましめて現場に急行せしめしが一行は附近の海上を殘る隈なく搜索したりと雖も賊影を認めず手を空しくして再昨夜本署に引揚げたりと

●太郎の意氣込み 當地新町は井門支店にて藝名を太郎と呼ぶ二枚看板あり調樣切つての年增にて座附き藝の手ぎわ既形も先づ二の町の姥櫻只三絃の手の調子が幾分か圓熟の域にありさか聞けど元より前記の狹間相の事さて同樓に其の姿を現はして以來も兎角人氣は引立ず常々若手の女郎連に制せられ勝れ年甲斐もなく末席をのみ占め居るより太郎の口惜しさ一方ならず人知れず無念の齒嚙みをなし居たりしが明けて春風の新年より如何なる風の吹き廻しにや登樓るほどの客と云ふ客誰れも彼れも太郎を呼べよ太郎は何う爲たと云ふ持て囃し方に太郎女郎はほく〳〵者なりとかされば同支店内にて月と呼ばれし月枝女郎花と稱されし絹枝女郎も一つ雪と賞へられし濱次女郎の面々は太郎が此頃の全盛にいでや大敵ござんなれと各自に祕策の陣を張りあの渋面相にて登樓の札襲を張られてはエヘン井門支店の名折れのみか新町美人の顏にかゝるとて今や對太郎の作戰計畫中と聞く斯かれば太郎女郎も油斷せずいかでか若輩の方々に先を越されてなる者かと應戰頗る勉め居れりと目下の戰況にては太郎女郎最も優勢の地位を占め月枝濱次百合子絹枝等之に次ぐその事なるが斯く亂戰を知るよりも各雜兵の小者女郎迄が各々慕う姐さんに勝利を得させん者と皆それ〳〵に戰ひ中とは笑ひ草同支店の女郎衆の中には無類女郎裸体女郎と名を負つた無作法者もある筈なれどそは又何れ發表仕る

●中檢の紛擾解決 客年末より中止するとか解散するとか日々に紛擾を重ね居たりし中券番其後の内情を聞くに各組合の面々兎角自分勝手の仕打ち多く中にも檢番費用一割を引去らるゝが辛さに現に揃ひの妓共等が酒宴の際に侍し居るにも拘はらず「あの妓は今夜病氣で」と一人の樓主を券番の手前を誤魔化せば之を見聞きし他の樓主連も爲ぬ丈けが損と云ふ氣になり皆々此の手を遣り出すにぞ文句の絶ねぬは最もなりきと夫れのみか中には檢番の不必要を唱へ出しよしや其筋の命あるにせよ其所は表面で唯檢番と云ふのみの看板のみを掲げて置けば費用も何も要つた者かと途法もなき議論さへ持出す連中も生じたるより例の頑固な井門の爺さんは斯かる無法の口吻を組合員より聞くからは撤退到底取締などの役目はなり難しとて憤りたく檢券取締を辭し去つたはツイ五日許り前の事なりされば組合員にては早速取締後任選擧を行ひたるに今度は濟華亭女將のれかつさんと定まりたりしかど同人は女の事故固く斷りたれど從來同亭は券番組合等に對し情誼なる態度ありしとかにて同組合にては一層券番を濟華亭に一任せんとの意志と解り女將も大に困りしが其后段々の話の模樣にて其座敷度も畢竟同家雇人等の專斷と解りて漸く組合員も之を諒とし以前の選擧は取消して更に一昨日再び井門の爺さんに話を持懸け井門も種々の條件附にて取締役を承諾なし先づ一段落は決したりとの事にて今後は多少紛擾も改まるべしとなり

●理事廳の夜會 仁川信夫理事官は既報の如く去る十五日午後九時より理事廳内に於て盛大なる夜會を催ふしたり今其概況を報せんに之より先き理事廳の内外は紅白帶の電燈を點列れず裝飾すると共に之れに配するに無數の萬國旗を以てし階下は喫煙室及撞球場食堂婦人室香樂室等遺憾なく設備せられ其の美觀盛觀何に譬へつべくもあらず況んや當夜の參會者は之れ仁川の社交界を飾る内外人百餘名にして殊に今夜を晴れと着飾りたる内外貴婦人の如何に異彩を放ちたりしよ、斯くて陸軍々樂隊の美妙なる奏樂に連れて數番の舞踏あり信夫宮木兩婦人は雲衢くばかりの外賓十數名と踊さ無邪氣に舞ひつ踊りつ、興がる委天晴と云ふの外なし、同十一時より食堂を開かれたるが内外人相擁して洋酒を汲み交すものさては談ずる者、笑ふ者等あり藹々和氣靄々の觀を呈し主客共十二分の歡を盡したり併も同十二時より亦もや數番の舞踏は開始せられ之れと共に階下に仕つらへし撞球店を開かれしが諸賓店は元殿めしき法廷を充て嗣へ以前の設備其儘現存しある爲め異樣の感に打たれ朝倉氏の如き法廷審案を諧謔を弄しつ數杯を傾け其他諸的の盛觀を極めたり而して散會せしは星影疎にして寒風身に泌む翌午前二時頃なりき

●金の代りに拳骨 龍山櫻町五五井貫五郎方雇人石川縣人川畑三右衛門（一九）は同町日新湯とて韓人森養秀の營める湯屋に入浴せし湯錢七厘分を拂はざりしより森は之れを近隣に吹聽せしを三公聞きて大に怒り十六日午前八時頃三公湯屋に押懸け行き湯錢の代りに拳骨を與れ其上周衣を引裂きたるより警察沙汰となりしが結局示談にて事濟み

●惡いチヨンガー 中部下漢洞住の金萬心の倅孝出（一二）同じく金福植の倅德亨（一二）の兩人は一昨日午前十時頃日の出町五十五番戸高島圭造宅の入口戸を引き開けて家宅へ侵入する處を主人に發見せられ引致されたるが同家にては客年末靴二足洋傘一本窃取されたる事あり同人等の仕業にはあらずやと

●日曜日の新町 新町遊廓十軒の日曜日は流石に水揚も多く二日間の計は遊客二百五十四名に對して千二百九十五圓二十五錢の費消額なりしと

歌舞伎座の好評

▲第二回目の替狂言

旭町歌舞伎座は既報の如く中村福圓の一座にて十七日初日開演したるが當劇にては曾て見ざる大一座なると同時に琴高屋の技藝は既に定評あることとて前景氣頗る宜しく中券を初めとし所々の贈物等多く同座附近は見物人の雜踏を爲し居れり何は今回の興行は仕打ち阪本が寄座より分離して以來の初興行なれば眞事に大勉强を爲し棧敷は三圓平場一圓五十錢と云ふ破格の安値となしたりと今十八日の藝題は前「蝶千鳥曾我實記」六幕切「卅三所坂東觀音靈驗記」座頭澤市内より谷底迄にして配役左の如し

畠山重忠、曾我十郎、座頭澤市（中村福圓）大磯虎御前、女房お里（中村梅女）鬼王庄司左衛門、母滿江、本田近常（市川琊若）工藤左衛門祐經、仲居たとき、仁田四郎、米屋四郎兵衛（中村福三郎）源頼朝公、富田道三郎、判人眼九郎（中村菊三郎）兒箱王丸後に曾我五郎、新屋三兵衛（嵐吉職）畠山重保、化粧坂少將、藤司坊實永（中村梅太郎）近江小藤太、京小次郎、舍人五郎丸（市川小文次）伊藤祐親、たいこ持蝶々、大磯内家主長兵衛（片岡當久次）曾我祐信、行實阿闍利、和田左衛門義盛（嵐吾太郎）河津三郎、朝日奈義秀（中村昇若）大江廣盛、小磯千鳥（實川實若）

吉凶録

本町五丁目 三一館 判

一月十八日月曜十二圓の七 癸未八白 赤口破△一白 衰運の日なり事大小に拘らず控へめにすべし旅行金錢面白からず△二黑 親しき間には喧嘩起り他人のために損害頻繁おちん△三碧 信小事若くは小禁を齎らすことあり爭論負傷ある勿れ△四綠 陰鬱なる日なり物事不得要領に終らん建築林には吉△五黄 平靜の日なり業務繁昌上に失金破滿ある勿れ△六白 增運の日とす投利快事あり旅行開店業婚姻吉△七赤 概して普運の日なり契約談合婚約を訂するに妙△八白 新事及變更凶女色酒害盜失防ぐべし△九紫 陰鬱の日 着手創業吉旅行轉居作凶

●天氣豫報 自十七日午後六時 至十八日午後六時
北西の風曇少雪
十六日（華氏）最高温度 二二、六 最低温度 一四、二